

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	東淀川区
学 校 名	菅原小学校
学校長名	塩月 学

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・菅原小学校では、第6学年 105名

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語科について、平均正答率が大阪市平均正答率を10ポイント、全国平均正答率を10.2ポイント下回った。算数科については、平均正答率が大阪市平均正答率を12ポイント、全国平均正答率を12.5ポイント下回った。
- 平均無回答率については、国語科の全国平均より0.6ポイント下回ったが、国語科の大阪市平均や算数科の全国・大阪市平均をともに上回った。（無回答児童が多い）
- 質問紙調査においても、多くの項目で肯定的な回答の割合が低く、学習意欲を高め、学習・生活環境を整えていかねばならない。
- 両教科とも昨年度より全国平均との差が広がっており、学力向上は重要課題である。

## 分析から見えてきた成果・課題

## 教科に関する調査より

〔国語〕すべての領域において、大阪市平均を下回っている。特に「B書くこと」については、全国平均を14ポイントも下回った。しかし、領域の「A話すこと・聞くこと」は昨年度より正答率が上昇しており、対話的な学びに取り組んできた成果であると考ええる。また、平均無回答率も昨年度より下がっており、難しくてもあきらめずに取り組もうとする姿勢は育ってきている。しかし、どの領域においても、全国平均を大きく下回っており、どの学年においても基礎基本をしっかりと身につけさせることが急務である。

〔算数〕すべての領域において、大阪市平均を大きく下回っている。特に領域「変化と関係」については、昨年度も大きく下回っており改善が見られていない。習熟度別少人数学習により基礎基本の定着に取り組んでいるが、課題解決には至っていない。また「知識・理解」よりも「思考・判断・表現」に課題があるため、算数科においても説明したり話し合ったりする活動を取り入れていきたい。

## 質問紙調査より

質問紙における「自分には良いところがある」「学校に行くのは楽しい」の質問について、肯定的な回答は全国平均を大きく下回っている。楽しく授業し、「できた！わかった！」と達成感をもたせることで、自尊感情を高め、学習や学校について前向きな気持ちをもてるようにしていきたい。一方、「いじめはいけない」の質問については、肯定的に回答している児童が昨年度より向上しており、安全安心な教育や人権教育に取り組んできた成果である。また、生活や健康に関する指導や啓発により、「毎日朝食を食べる、同じくらの時刻に就寝・起床する」に関する肯定的な回答が向上し、正しい生活習慣が身につけてきている。

## 今後の取組(アクションプラン)

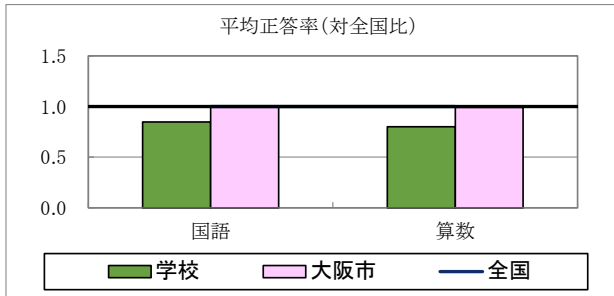
今年度の結果を踏まえ、ICT機器を活用した個別最適な学びや習熟度別少人数学習の効果的な活用を進め、基礎基本の定着を図っていく。さらに、理由や根拠を明確にして自分の考えを書いたり、対話することで考えを広げ、深めたりすることで、主体的・対話的で深い学びを実践していく。また、令和2年度より取り組んでいる国語科の指導法の研究をさらに深め、教員の指導力向上に努める。

「よいとこさがし」や「素敵な自分カード」等の取り組みを継続して行うとともに、学習面でも達成感を味わわせ、自己肯定感や自己有用感の向上を目指していく。また、基本的な生活習慣の確立や規範意識の向上については、情報モラル教育や保健指導、栄養指導を継続して行うことで、児童・保護者に啓発を続けていく。

## 【 全体の概要 】

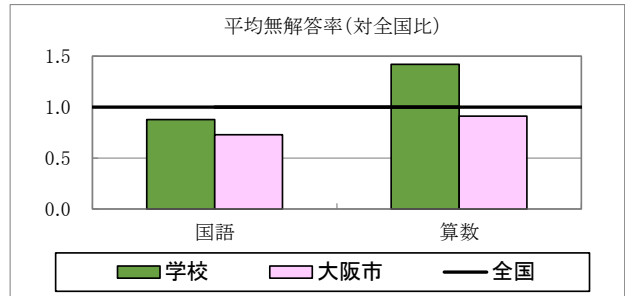
### 平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	57	50
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



### 平均無解答率 (%)

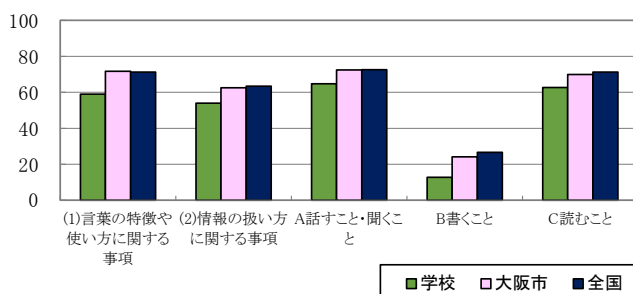
	国語	算数
学校	4.2	4.8
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4



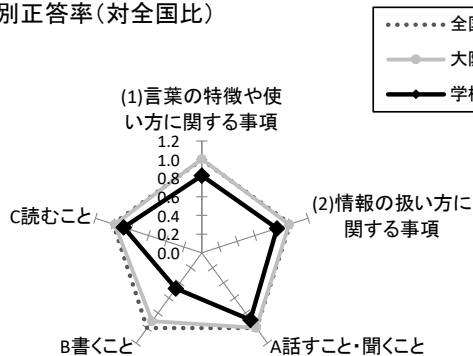
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	59.0	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	53.9	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	64.7	72.4	72.6
B 書くこと	1	12.7	24.2	26.7
C 読むこと	3	62.7	69.9	71.2

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



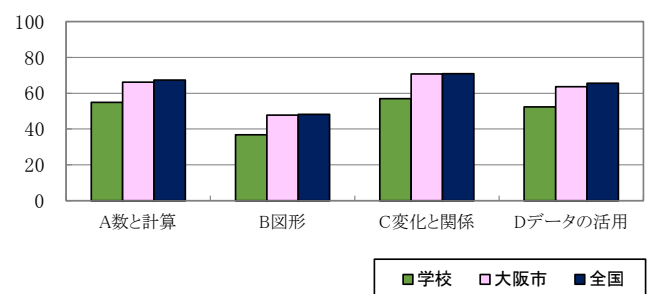
国語 領域別正答率(対全国比)



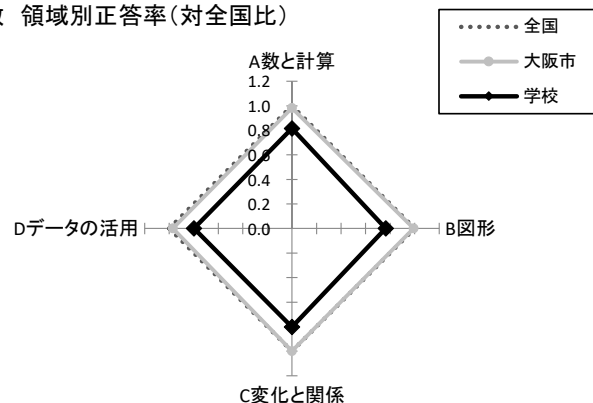
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	54.9	66.1	67.3
B 図形	4	36.8	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	56.9	70.8	70.9
D データの活用	3	52.3	63.6	65.5

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



算数 領域別正答率(対全国比)



# 児童質問紙より

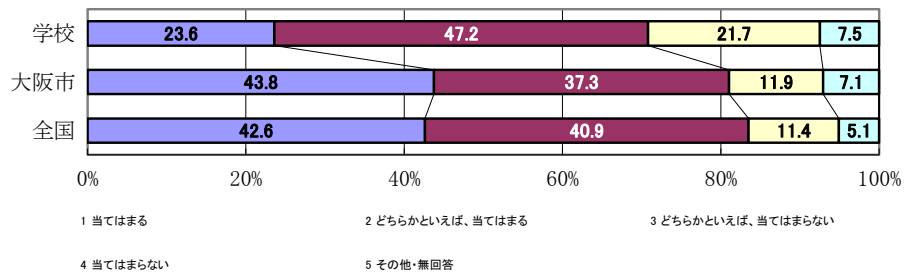
質問番号

質問事項

4

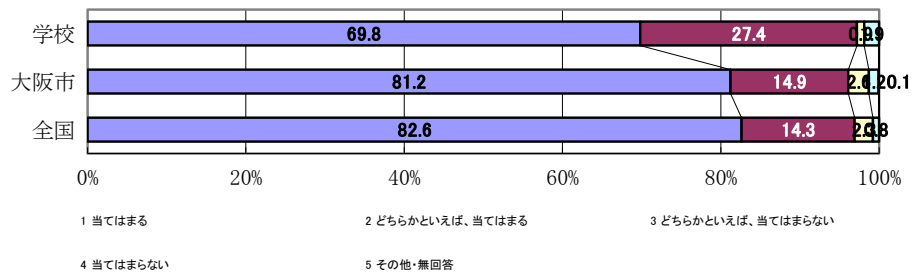
自分には、よいところがあると思う

1 2 3 4 5 6 7 8



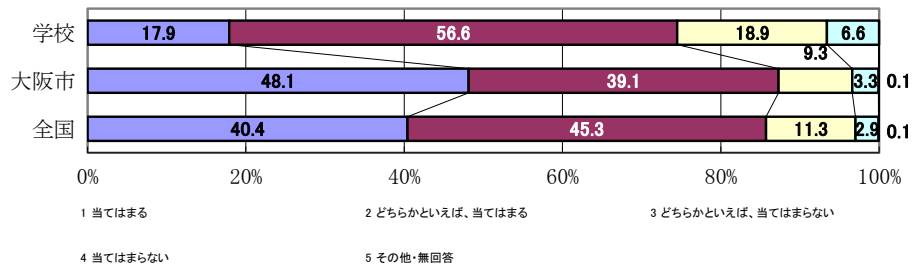
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



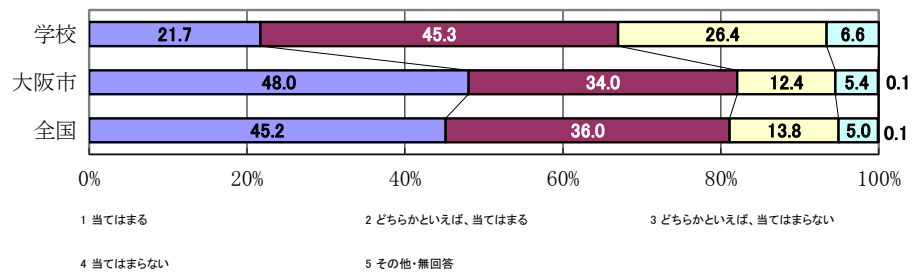
45

国語の授業の内容はよく分かる



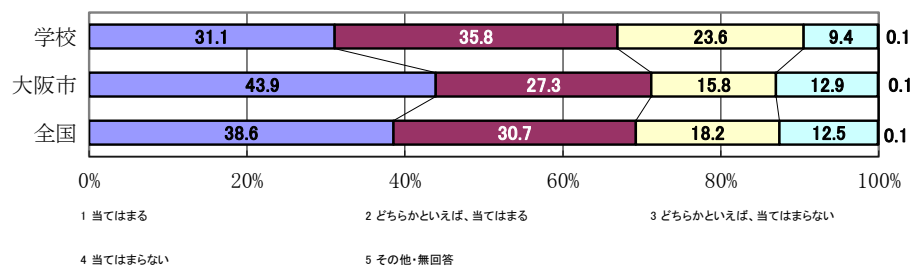
53

算数の授業の内容はよく分かる



55

英語の勉強は好きだ



# 学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

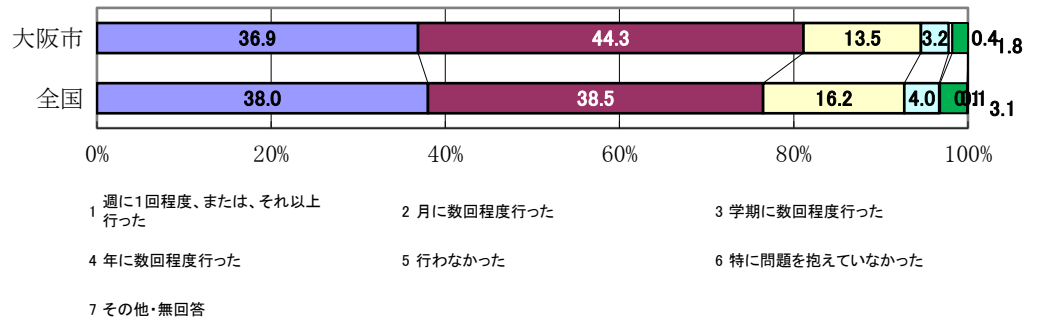
質問番号

質問事項

14

校長として、よりよい学校運営を行うために、前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

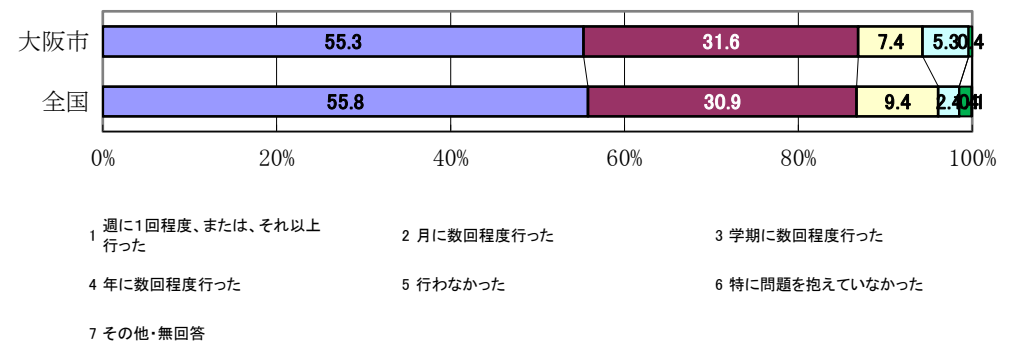
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



15

校長として、よりよい学校運営を行うために、前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

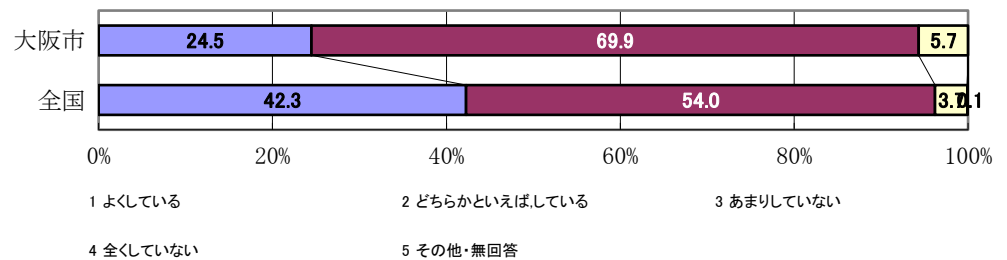
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



18

教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している

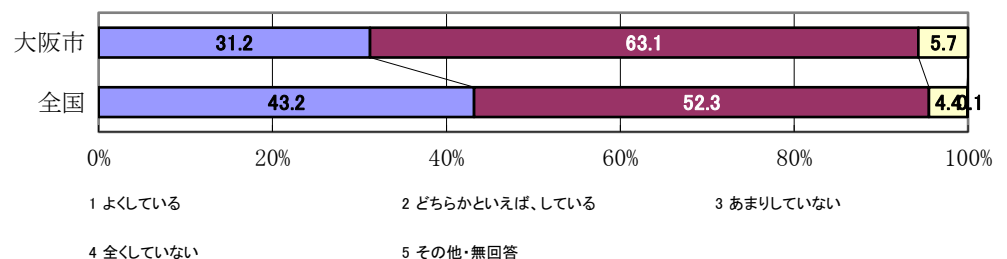
学校 「よくしている」を選択



20

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

学校 「よくしている」を選択



21

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる

学校 「よくしている」を選択

